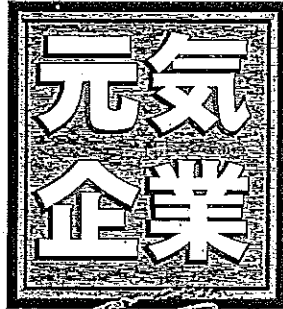


(2006年9月21日)



—シリーズ第9回—

企業PROFILE



住所  
〒940-2022  
長岡市鉄工町  
2-3-54

資本金  
5000万円

従業員数  
40人

岡部 福松社長

【事業の内容】

円筒研削盤、内面研削盤を中心とした高精度、高能率工作機械並びに特殊加工専用機の製造販売。超小型から中型、大型機種まで幅広く対応。

が高く評価されたからに他なりません。  
岡部福松さんはますますエネルギーギンニュに働きます。太平洋戦争中は舞鶴の海軍公社の指定工場として、兵器の生産にも従事しました。

○このような大きなチャンスのおかげで、「英式八尺旋盤」が働き続けます。  
不幸なことに、昭和20年8月1日には、米軍の空襲により工場は灰燼に帰しましたが、それでも焼け跡から掘り出された

この機械は、もう一度整備され戦後も働き続けました。昭和48年(1973年)、ついに現役を引退しますが、昭和6年から40年あまりにわたって、「丸栄機械製作所」の顔でした。それだけに、現社長の岡部福松さんの愛着は、一段と大きいのです。  
この旋盤は、現在ハイブ長岡の「長岡市産業展示室」で展示されています。今でも使えるように整備されており、風雪に耐えた姿は、なかなかの貴族です。  
全てが次のステップに繋がっており、現在の「丸栄機械製作所」の基盤を形成してまいります。

○昭和6年、創業の年に開催された「上越線全通記念博覧会」は、当社にとって大きな転機になりました。博覧会に出品されていた旋盤、「英式八尺旋盤」を購入できたことは大きな成果です。  
大きさは、3倍くらいあるのでしょうか。かなり大きな旋盤です。戦前から戦後の一時期まで、このような機械が全国の工場で使用されました。最近ではコンピュータ制御の機械が普及し、技術のあり方も変わってきて

株式会社丸栄機械製作所

ましたが、当時は、この旋盤の操作だけで精度をだしたのです。職人の技が光る時代でした。それだけに、機械は購

に出します。新鋭機器を使いこなすし、駆使し、新製品を完成する。それは当社の原点になります。

す。しかも責任者として、岡部福松さんに専務取締役の重責が回ってきました。

先端技術の開発が目的であり、技術移転にも積極的な企業でした。太平洋戦争終結後は、「株式会社科学研究所」に転身し、その後変遷がありましたが、現在では「独立行政法人理化学研究所」に改組しています。

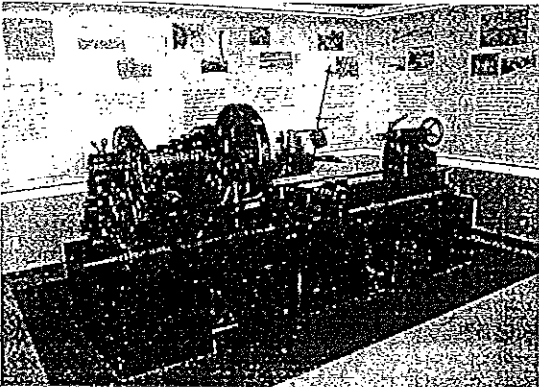
【2】英式八尺旋盤の活躍

入すればそのまま最高の性能を発揮できるとは限りません。使いこなすにはそれなりの苦労が伴います。それを昇事に克服して、「六尺旋盤」を世

○次の大きなチャンスもまもなくやってきます。昭和12年(1937年)、「理研」が宮内駅前に進出することが決まりました。

研究開発で知られる国策会社でした。渋沢栄一翁を設立者総代に、「財団法人理化学研究所」として、大正6年(1917年)に設立されました。

○理研宮内工場の専務取締役に就任したことは、先代社長福松さんの手腕の結果、本県産業界は、さまざまな最新技術を学んでいきます。



ハイブ長岡に展示されている「英式八尺旋盤」

この機械は、もう一度整備され戦後も働き続けました。昭和48年(1973年)、ついに現役を引退しますが、昭和6年から40年あまりにわたって、「丸栄機械製作所」の顔でした。それだけに、現社長の岡部福松さんの愛着は、一段と大きいのです。  
この旋盤は、現在ハイブ長岡の「長岡市産業展示室」で展示されています。今でも使えるように整備されており、風雪に耐えた姿は、なかなかの貴族です。  
全てが次のステップに繋がっており、現在の「丸栄機械製作所」の基盤を形成してまいります。

(つづく)  
《シリーズ全5回・毎週末曜日連載》

(文)長岡新聞社編集顧問、新潟県経済雇用問題研究所理事 長松田宣治